

第 56 回全国学童保育研究集会（20211023~20211024）レポート

【クラブ】（ たけのこクラブ ）

【名 前】（ 米本美紀 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 20 ）分科会 （ 子どもの発達と学力 ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

② この分科会を選んだ理由をお書きください。

毎日の学童の生活の中に「宿題」をするという、子ども達にとっては一日学校で勉強をし、学童へ帰宅しても学校の宿題や塾の宿題が残っているという大人にとっては簡単に思えることが、子どもにとったら気の遠くなる作業です。「やりたくない」の一言でなかなか進まない作業をどうやる気になってもらうか？どんな声掛けが一番なのか？を知りたくてこの分科会を選びました。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

分科会では、202 名の参加となりました。

1 年生～6 年生までの中で 4 年生の子どもが一番「漢字」を習うそうです。

1 年間で 202 文字の漢字を覚えなくてはならないので、1 文字 5 分～7 分で覚えなくてはならないのです。

漢字だけを覚えるほかにも算数・理科・社会の授業も行い帰宅すれば学校の宿題、習い事の宿題をして習い事に行き、また勉強をします。

今では、学童に帰ってきてても遊んだり、休憩をしたりする時間もないまま宿題をこなし、学童では宿題をするだけしかない時間のない子どもも多くいます。

その中で生活する子ども達の息抜きをする場所は？となると「学童」が息抜きの出来る居場所となります。その居場所づくりを指導員は提供しなくてはなりません。

宿題や勉強も子ども達にはとても大切な事ですが、日々頑張っている子ども達に

「もっと、がんばってね」「もっとやれば出来る」などの声掛けは子ども達にとったら

「これ以上どうがんばればいいのか？」と子どもは思うはずです。

頑張っているはずなのに大人に伝わらないのはとても酷な事だと思いました。テストの点が悪いから頑張っていないのか？結果が出ないから頑張っていないのか？

でも、子ども達には結果が全てではなく頑張っている過程を大人が認めることが大切だと思いました。勉強につまずいたら教師や講師ではないけれど、子どもの「わからない」を共有することはできます。お手伝いをしてあげることできます。

私は、学童保育所という場所がそんな場所であってもいいのではないかと感じました。

子どもの「わからない」と一緒に考え、一緒に悩んであげたい。
子どもの経過を評価し、課題へのアプローチを見てあげたい。
そんな、学童保育所の指導員でいたいと強く感じた分科会でした。
子どもの「頑張っている姿」を認めてあげられる大人でいたいと思いました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、11月7日（日）です。常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。